

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271900239		
法人名	特定非営利活動法人弥栄発生活りハビリネット		
事業所名	グループホームふじいさんち		
所在地	島根県浜田市弥栄町木都賀口291番地		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	平成29年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	平成29年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者の方の自立支援と尊厳を大切にケア、ひとりひとりの生活づくりに努めている。
2. 今年度9月より認知症カフェを開設し地域貢献できるように努めている。
3. 町内各戸配布の広報誌「やまさとたより」やご家族や利用者代理人に毎月送る便り「ふじいさんち通信」が事業所立ち上げ時より継続している。
4. 運営推進会議での意見や助言がグループホームでの活動に活かされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初より広報誌「やまさとたより」を町内各戸へ配布したり、診療所の実習生の受け入れを行い、地域との関係を築きながら利用者の生活を支えている。今年度は認知症カフェを開設し、地域の人を含む多くの人が参加し交流を図った。認知症についての相談もあり、今後内容を検討しながら地域に役立てたいと考えている。職員は利用者との関わり方を日々自問自答し、皆で話し合いより良いケアを模索している。利用者を見守る中で、安全確認のためだけとならないよう、自由に過ごしてもらうための見守り方を考えながら支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コンプライアンスルールの掲示、内部研修の予定	掲示や、スタッフ会で話し合い周知を図っている。今後さらに一つひとつの内容の捉え方について話し合っていこうと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	集落の運動会、町の健康福祉の集い・敬老会等地域行事への参加。日々の町内での買い物。町内での美容院・理容院の利用。保育園児さんや民生委員さん、診療所の研修生さんとの交流。	地域行事への参加や、保育園児や診療所の研修生と交流している。たよりを全戸配布したり認知症カフェを開いたり野菜市へ行くなど、地域の人とのつながりを大事にした取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護相談を受けたり、健康福祉の集いでの展示をしている。広報「やまとたより」を各戸配布し、取り組んでいる支援を紹介したり、生活上の様々な提案をしたりして理解を求めている。今年度9月からは認知症カフェを始める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、左記の内容の報告をしたり、話し合いをし、意見や助言を委員さん方から頂いている。議事録は開示し、サービスの向上に活かしている。	事業所の取り組みを伝え、情報提供を受けたり防災の助言などを得てサービスに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の包括支援係や保護係の方とは利用者の方についての情報交換や相談を必要に応じて行っている。運営推進会議委員の支所の職員さんとは運営会議の議事や職員研修の相談、事故の報告等連絡をとりあうようにしている。	運営推進会議への参加や、日頃から相談をしたり情報提供を受け協力を得ている。認知症カフェのオープンにあたり他での取り組みの情報をもらい取り組んだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠(夜間～早朝)、ケアのために必要な方に設置しているセンサー以外は拘束は行っていない。センサーについてはケアプランにあげ、ご家族又は利用者代理人の方に同意書を頂いている。	利用者の動きを制止せず、付き添う為との考えでセンサーマットや玄関のチャイムを設置している。外に出たい人には動きを見て同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でお互い意見交換し合い、防止に努めている。利用者の方への言葉づかい等は内部での研修の機会を予定している。外部の研修の機会があれば参加できるように勤務調整を行うようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で成年後見制度について実際利用者の保佐人として関わっておられる弁護士の方から学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は理解・納得が得られるよう十分説明するよう努めている。改定の際は説明とともに同意書を作成し文書でも納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者代理人の方への意向調査を実施。運営会議への参加を求め意見・要望を表せる機会を設けている。ケアプランの説明を兼ね最低年1回面談の機会を持っている。それらは、スタッフに周知し、スタッフ会でも話合っている。	家族の集いやイベントは難しくなっているが、「意向調査」を行い家族の意向に沿った支援をするよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案事項等はスタッフ会で聞くのが主だが、常時きく機会を設け反映させるように努めている。しかし、スタッフからはできていないことが多いという指摘もある。また意見や提案の受け止め方に問題ありという指摘も受けているので代表者及び管理者は反省している。	会議の場や日常的に意見を聞くことに努めている。代表者、管理者は、職員の意見や思いを真摯に受け止めて反省し改善に取り組んでいる。	代表者、管理者、職員が日常的に「ふじいさんち」の夢を語り合い取り組んでいかれることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間等は各スタッフの家庭事情に合わせて設定しているので働きやすいとの意見がある。が一方では信頼関係が築きにくく、雇用環境はあまり良くないと感じているスタッフもいる。パワハラ的発言で職員が退職したとの意見もあり今後の運営に課題が残る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の機会の確保に努め、働きながらのキャリアアップができるように配慮している。一人ひとりのケアの実際と力量の把握についてはスタッフから十分にできていないとの指摘がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は浜田地区であったが、近年は交流は全くない。しまね小規模ケア協議会に所属しているが、近年交流会等の参加の頻度が少なくなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できている、努めているというスタッフとゆっくりに話を聞く時間がとれないと感じているスタッフがいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	スタッフ全員が意識して、ご家族等とは関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近年は他のサービスについて、利用されることがないが、事が発生した時には相談に応じ、他のサービスを紹介したり、利用できるように支援を行い、対応には努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築くように努め、負担にならないよう配慮しながら利用者のできることをやって頂き、役割があることを実感してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者個々人の生活の様子を写真に撮り、載せたふじいさんち通信をそのご家族に毎月送っている。関係を築き、絆を深める一助になればと思い支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に出かけたり、知人の訪問があったりするが、全ての利用者に関係継続の支援ができていない。	買い物の途中で自宅前を通ったり、美容院に出かけたり、身内の葬儀に参列するなど、利用者の思いに沿って支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを一緒に楽しめるように努め、又コミュニケーションがスムーズにできるようにテーブルの席を配慮したりして支援に努めている。一人になりたい時のサブ空間も廊下に設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族からの相談があれば、必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人の気持ちを大切に、思いを傾聴している。食後ゆっくりした談笑時間、話したいサインがみられた時は個別に傾聴して希望、意向の把握に努めている。	傾聴に努め、食べたい物ややりたいことなどを聴き支援に活かしている。利用者のこれまでの暮らしぶりを把握し職員間で共有することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、ケアマネジメントの過程で情報収集して把握している。馴染みの暮らし方等はご家族やご本人から聴き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を通して、現状把握し、スタッフ間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や利用者代理人の方、必要な関係者の方との面談の記録は全スタッフがみて情報を共有できるようにしている。それらを反映した介護計画を作成するように努めている。	毎月スタッフ会で医療やケアの課題、ケアの方法などを確認し合いプランに反映させている。業務改善と併せて記録用紙の変更を行い情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録により情報は共有できており、スタッフ会等での課題の検討を通じて、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応した支援ができるようにスタッフ会等で話し合いながら、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の美容院、理容院、野菜市や食料品店等の利用。地域行事参加の時は地域の方、町の女性の会、社協の方の声かけや助けがある。スタッフは暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はホーム対応の方が増えているので、診療所の利用を提案してスタッフが付き添いしている。結果の報告等も必要に応じてご家族等に行っている。他科(歯科等)の受診も必要に応じて同様に対応している。	診療所の医師の受診を支援し、適切な医療が受けられるよう情報提供を行っている。専門外来を家族と受診する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はない。受診時には、医療機関に情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、適切な時期に病院への訪問を行い、ご家族等の同意を得て、病院関係者との情報交換や退院に向けての会議を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に事業所の方針を説明している。ご本人の状態の変化に応じて随時ご家族等と話し合いを持ち、事業所でできることを説明し、契約時の方針に従い、重度化した場合は、次の施設等への申し込みを支援したり、申し込みをすでにしてある施設には情報提供を行っている。	入居時に事業所でできることを伝えていて、状況変化に合わせ家族や関係者と話し合い対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修や講習会の参加は積極的にしているが、全てのスタッフが実践力を身につけているわけではなく、対応には不備がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は年2回行っている。自然災害については、地区の防災組織からの訓練の情報を得たり、運営推進会議で行政の方からの情報も得ている。実際豪雨があり避難指示が支所から出た時も事前に状況把握の連絡があった。	年2回火災訓練を行い地域の人にも参加してもらっている。8月に防災マニュアルの見直しを行った。地域自主防災組織ができ情報提供や安否確認がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには日々心がけている。ご本人が意志決定できるような言葉かけに努めている。たわいもない会話や冗談は受け止められる方と受け止められない方がおられるので見極めて、その時の心情も考慮して言葉を選んでいる。	一人ひとりに合った言葉かけや、本人の行動を尊重し見守る支援に努めている。入浴時や排泄時、入室時などプライバシーに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの飲み物やレクリエーションの参加等の自己決定、食事の献立等希望を表せるように働きかけている。時間のある限り、傾聴を基本に先入観を入れずにご本人の言葉を受け止めるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフが手薄になる時間を除いては、ご本人の意思を尊重して、希望に添って過ごしかたを支援している。日課のようなものはあるが無理強いことはなく、ご本人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族等に相談しながら、髪のパーマ、染め、化粧品の購入等ご本人の希望に添うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の一部(下ごしらえや盛付け等)や片づけ(朝食後、昼食後)は声をかけながらスタッフと一緒にしている。一人ひとりの好みや力、体調を見極めながら、できることをできるように支援している。	一緒に野菜市に行ったり、下ごしらえや盛付け、片付けなど、利用者ができることを支援している。職員も一緒にテーブルにつき、会話をしながら和やかな場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて支援している。水分摂取については、必要量が確保できるように、飲み物の好みを聴いたりして工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りが必要な方、介助が必要な方等ご本人の力に応じた口腔ケアができるように努めている。不定期ではあるが、歯科衛生士のアドバイスも受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフ会等での話し合いを通じて、排泄のパターンをスタッフが情報を共有し、色々な方法を試しながら、気持ちの良い排泄をめざして、支援を行っている。	プライバシーに配慮しながら、声かけや対応の仕方を考え利用者に合わせた支援をしている。夜間トイレに行けるようになりポータブルの使用が減った人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、オリゴ糖、発酵食品、食物繊維の多く含まれる食材の利用等飲食物の工夫を行っている。体操は1日1～2回日課として行い運動の機会をつくっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせることはできないが、概ね2日に1回はスタッフが声をかけ15時～17時の時間帯に入浴ができるようにしている。	利用者によっては希望の回数はいろいろだが、概ね一日おきに全利用者が「均等に」入浴できるようにとの思いで、様子を見て声をかけ支援している。状況によって柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息できる環境を整え、薬の使用も含めて、気持ちよく眠れるように支援している。自分で休息のとれない方は声をかけて、休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医師、薬剤師とも連携を取りながら、正しい服薬の支援を行っている。薬の目的や用法、用量については理解しようと努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やパズル、散歩、読書等それぞれに応じた楽しみや気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員配置が手薄な時(夕方等)は難しいが、できるだけ散歩等近隣の外出は希望にそえるように先に声かけしたりすることもある。普段出かけられない場所にはカラオケ、イチゴ狩り等イベントとして取り組んでいる。帰宅希望等はご家族等の協力を得るのが難しい。	野菜市に行ったり、散歩したり、畑で野菜の収穫をするなど、外気に触れる機会を作っている。家族と外出する人もいる。利用者の希望でイチゴ狩りに出かけ喜ばれた。個別の希望による外出支援の仕方を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理困難な方が多く、ご家族等の意向を優先させている。ご自分でお金を所持している方もおられるが、支払いをされることはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等書かれるように支援している。又、ケアプランにあげ、月に1回はハガキをご家族に送り絆を実感して頂いている方もある。電話については必要に応じてご家族の意向にそって支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節感や生活感のある利用者の方の作品を飾ったり、外の花や野菜が見えるようにしている。室内温度には配慮し、光・音には気遣いしている。共用空間では対人トラブルもあるので、家具の配置等にも気配りしている。	日差しや室温に配慮し共有スペースは床暖房になっている。利用者目線での時計の設置や、季節を感じられる環境作りをしている。職員が積極的に廊下に椅子とテーブル、本を置き、自由に過ごせるスペースを作った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の東西の廊下にはサブ空間を設けている。ソファや本棚等を置いて、休息したり、読書したり、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り、安全面も考慮している、相談できるご家族等には相談しながら、居心地良く過ごせるように工夫している。	使い慣れた身の回り品や雑誌を置いたり、家族の写真を飾り居心地の良いように工夫している。居室は床暖房になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせて、柔軟に対応し、安全かつ自立した生活が送れるよう支援に努めている。		